

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター (HUVVC)

NEWSLETTER 第11号

オンライン学習支援ボランティアを募集中!!

新型コロナウイルス感染拡大により、学習機会の確保や学習環境の整備に影響が及んでいる県内の子ども達を対象として、Zoomを用いたオンライン学習支援を行っています。

弘前市内、青森市、黒石市、むつ市のご家庭や子ども食堂などと学生ボランティアの皆さんをオンラインでつないで共に勉強を行い、わからないところをすぐに大学生のお兄さんお姉さんに聞くことができる環境を作っています。

【主な活動日時】

- ▽毎週水曜日 16:30~19:00(各家庭、子ども食堂など)
- ▽第2・第4土曜日 10:00~12:00(黒石市子ども食堂)

▼大学生ボランティア大募集中

現在、子ども達の需要に対して大学生ボランティアの数が足りない状況です。子ども達の学習習慣を確立するためには、毎週定期的な学習会の開催が必要となるため、多くの学生ボランティアの皆さんの協力が必要です。

本事業に興味のある方は是非、ボランティアセンターへご連絡ください。

ポケットWi-Fiレンタル、ホワイトボード等必要物品の支給を行っており、参加前にはオリエンテーションや事業見学もありますので、初めての方でも安心して御参加いただける環境を整えております。

詳細はホームページをご覧ください。皆様の参加をお待ちしております!!

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
オンライン共同学習会『Zoomあそびん』
オンライン学習支援ボランティア大募集!
Designed by Pngtree

～県内各地の子どもたちのために～
弘前大学地域創生本部ボランティアセンターでは、弘前市内だけでなく県内各地の幅広い地域の子どもたちを対象に、オンライン上での学習支援ボランティアを行っています。Zoomビデオ会議システムを用いて、各家庭や子ども食堂などと学生ボランティアの皆さんをオンラインで繋ぎ、子どもたちへの学習支援や居場所づくりを行っています。

オンライン学習支援ボランティア3つのポイント

- Point 1** 初めの方も気軽に始められる!
オリエンテーションや見学等もあるので、気になる方はお気軽にご参加ください。
- Point 2** 単日から参加可能、途中参加・退出もOK!
週1~2回の活動を予定していますが、都合に合わせて活動が可能です。
- Point 3** ポケットWi-Fi等必要物品支給!
その他、ホワイトボード等の必要物品は当センターよりお貸し出しします。

オンライン学習支援ボランティアは、マンツーマンの家庭教師のようなスタイルではなく、大学生と子どもたちが同じ空間で一緒に勉強しているようなイメージです。子どもたちからの質問に答えたり、休憩時には勉強の話だけでなく色々な話をしてコミュニケーションをとっています。子どもたちへのリモート教育や学習支援ボランティアに興味がある方は、お気軽にボランティアセンターまでお問い合わせください。

問い合わせ先：弘前大学地域創生本部ボランティアセンター (文京キャンパス2階)
TEL: 0172-39-3268 FAX: 0172-34-5251
Email: huvvc@hirosaki-u.ac.jp ホームページURL: https://huvvc.net

令和2年度除雪ボランティアを実施しました

令和2年度除雪ボランティアを実施しました。第1回目は令和3年1月30日(土)。場所は弘高下駅から旧Uマート交差点までの除排雪を行いました。学生28名、教職員4名が参加し、弘前市職員、弘前防災マイスター連絡会、町内会の皆さま、合わせて約70名による除排雪活動となりました。第2回目は令和3年2月20日(土)。場所は旧Uマートから土手町方面の除排雪を行いました。学生30名、教職員3名、弘前市職員他7名、約40名での活動となりました。ご協力いただきました皆さまありがとうございました。

本センターでは平成24年度から、弘前市道路維持課と連携し、主に買い物路や通学路の除排雪ボランティアを行ってきました。

第1回目となる本活動はかなりの積雪があり、雪の降る中、町民の方や防災マイスター連絡会の方々から熟練の除雪スキルを学びながら学生による力強い除雪作業が行われました。本事業のみならず除雪ボランティアを積極的に実施している「弘前大学柔道部」の参加もあり、オリジナルのベストを着用し、先頭に立って活動に参加していました。



除雪ボランティアの様子



除雪ボランティアの様子



全体集合写真

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- 弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL: 0172-38-5595
- 弘前大学関係者・・・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター E-mail: huvvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
・・・HP: https://huvvc.net/ TEL: 0172-39-3268 平日午前10時~午後3時



令和2年度第1回市民ボランティア講座『子どもの居場所づくりフォーラム』を開催

令和2年11月29日(日)に弘前市総合学習センター大会議室にて、今年度1回目となる市民ボランティア講座「人が繋がる地域の居場所づくりについて」を対面型とオンラインのハイブリットで開催しました。

本センターでは平成27年度から、弘前市、社会福祉法人弘前市社会福祉協議会と連携し、弘前市内の生活困窮世帯の小・中学生を対象に、子ども達の学力向上を通じて貧困の連鎖を断ち切ることを目的とした学習支援活動を行ってきました。また、昨年度からは子どもの貧困問題へ積極的に取り組み、公開講座の実施や青森県社会福祉協議会等と連携し、市内子ども食堂の充実に向けた取組を実施してきました。本講座は、子どもが自分らしく過ごせる子どもの居場所づくりにかかわる人々と、よりよい子どもの居場所をどのように作り上げていくかを語り合うことを目的として開催されました。

当日は、会場での参加が48名、オンライン(Zoom)での参加が14名、青森市に設置されたパブリックビューイングからの参加が10名、合計で72名の参加がありました。講演中のワークでは、初対面同士でありながらも、参加者同士が活発に意見交換をしよう場面がみられました。また、会場とオンラインの参加者から講師やパネリストに対して、事業モデルやボランティア活動など様々な観点から活発に質問があり、参加者が一体となって子どもの居場所づくりについて考える機会となりました。

本講座は2部構成で開催され、第1部は基調講演として、石

巻子どもセンターらいつ事務局長 吉川恭平氏を講師に迎え、「子どもの育ちとよりよい居場所づくり」をテーマとして、講演が行われました。講演では、子どもセンターらいつのコンセプトや建設プロセスについて説明があった後、子どもが安心して自分らしくいられる環境づくりや、子どもが1人の主体としていられる環境づくり、地域で子どもを見守る環境づくりについて講演がありました。その中で、子どもを1人の人として向き合い、話を聞き、声を拾い上げる大人の存在の重要性などについて講演がありました。

第2部は、基調講演講師の吉川氏、子ども食堂すこやかプロジェクト事務局長 佐藤まさ氏、株式会社池田介護研究所代表取締役 池田右文氏の3名をパネリストに迎え、本学人文社会科学部教授・ボランティアセンター長 李永俊の進行のもと、「子どもにとってよりよい居場所づくりのつくり方」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。まず、佐藤氏、池田氏から、現在行っている事業について説明があったのち、参加者との間で議論が交わされました。参加者からは、金銭面や物資面のやりくりに関する内容など、運営面に関して、より具体的な質問が挙がるなど、パネリスト・参加者双方でよりよい子どもの居場所をつくるために必要なことを真剣に考える時間となりました。

本センターでは今後も地域課題解決に資する様々な取組を行っていく予定です。



主催挨拶する鹿内理事長



基調講演する吉川氏



リモート実施の様子



パネルディスカッション

令和2年度第2回市民ボランティア講座『With コロナと災害ボランティア』を開催

令和3年2月5日(金)に弘前大学創立50周年記念会館にて、今年度2回目の市民ボランティア講座「With コロナと災害ボランティア」を開催いたしました。

本講座では、今年度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえて、改めて災害ボランティアの活動の意義を学ぶとともに、コロナ禍における救急救命について学ぶことを目的として開催しました。当日は会場参加者18名、Zoom上からの参加者4名の計22名の参加がありました。

本講座は2部構成で開催され、第1部では学校法人八商学園秀岳館高等学校災害ボランティアチームから高校生3名が登壇し、コロナ禍における災害ボランティアの経験について講演がありました。講演では、災害ボランティアのやりがいや大変さとともに、コロナ禍であったからこそその苦労などについて高校生の視点から報告がありました。参加者からは、「高校生から生の経験についてのお話が聞けて感銘を受けたとともに、中川校長先生をはじめ、生徒達を中心となり学校全体でボランティ

アに取り組む姿勢が素晴らしかった」などの声が寄せられました。

第2部では、弘前医療福祉大学救急救命会の皆様を講師にお招きし、コロナ禍における救急救命のやり方について、実践を交えた体験が行われました。傷病者の反応確認は距離を保ちながら行うことや、心肺蘇生時には口元をハンカチ等で覆うことなど、新型コロナウイルス感染症を防ぐための救急救命法について説明がありました。会場では様々な年齢層の参加者が、講師の方の説明を受けながら訓練用人体モデルを使用して実際に訓練を行いました。また、実際に人体モデルがなくても、ペットボトルを使用することで、家でも胸骨圧迫の練習ができるなどの情報が提供されました。

本センターでは、災害に関する知識等を継続して学ぶことが重要であると考えており、今後も継続して防災に関する講座を実施する予定です。



講演した高校生3名



秀岳館高等学校中川校長先生



災害ボランティアの様子



講演を聞く参加者



救急救命の全体の様子



救急救命の説明の様子



参加者の救急救命の体験①



参加者の救急救命の体験②



李先生閉会挨拶